

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和4年11月8日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから11月8日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

まず、あしたの委員会の定例会ですけれども、国会日程の関係上時間が変更になっています。13時半からに変更になっています。それに伴いまして委員長の会見の時間も変わってまして、16時半からとなっています。

定例会の議題は3つです。

1つ目が、炉安審・燃安審の会長との意見交換です。炉安審と燃安審は、最近、委員が大体任期を迎えまして、新しい委員構成になったことを受けまして、新しい会長と意見交換をするというものです。会長自体は引き続き関村会長、山本会長ということなのですけれども、改めて意見交換を行うということになります。これまでこういう調査、審議をしてきて、今後こういうことをやっていきたいみたいな話が行われるのではないかと思います。

2つ目が、3条改正に係る許認可の不適合事案を踏まえた改善活動というものです。

これは、元々をたどると1月12日の委員会で、京都大学炉について申請書の添付漏れという事案がありまして、これは単純に京都大学が悪いということではなくて、規制庁側に改善すべき点ありということで、ほかにも同様な不備がなかったかということ調べまして、3月30日の委員会で17件の不備があったということが報告されたものの続報ということになります。

そういった不備を受けまして、その改善活動をこんなことをやりましたという報告をするのと、あとは、その後、申請者から聞き取りやアンケートも行って、さらに改善すべき点というものも見つけ出しまして、では、今後こういうところを改善していきますというような報告を行うという議題になります。

議題の3つ目が、IAEA（国際原子力機関）の安全基準委員会の結果概要です。

この安全基準委員会は年2回行われていまして、原子力施設の安全に関する基準といったものを作るという委員会ですけれども、これが10月18日から20日にかけて行われまして、出張者からその状況の報告を行うという議題になります。

次が、裏のページに行きまして、11月14日の（4）緊急時活動レベルの見直しに係る会合です。これは特定重大事故等対処施設が議題になるので非公開となっています。

これは6月1日の委員会で、特重ができたことに伴うEAL（緊急時活動レベル）の見直しというものを、BWR（沸騰水型原子炉）について行うという方針が報告されていますけれども、その件について、前回6月21日にやっていますけれども、その続きの2回目ということになっています。

次が、11月14日の（5）核燃料施設等のほうの審査会合です。

議題は1つで、日本原電の東海低レベル廃棄物埋設事業所の、いわゆるトレンチ処分についてということになります。

これは元々は2015年に申請があったものですがけれども、その後、処分の基準の見直しなどもありまして審査が中断していたのですがけれども、前回10月4日から審査が再開されました2回目ということになりますけれども、今回は埋設する廃棄物の種類とか放射エネルギーの設定について説明があるということになります。

次が、4ポツのその他のところの（1）ですけれども、IAEAのALPS（多核種除去設備）処理水のレビューの準備会合とあります。

これは第1回目のレビューは、今年の3月に行われたものの2回目ということになりますけれども、レビュー本体は来年の年明け頃に行われる見込みですとお伝えしていると思いますけれども、その準備のための会合ということで、事務的なものなので非公開となっています。

次が、4の（2）委員長による日本記者クラブでの会見ということで、就任を受けまして日本記者クラブで会見をするということになっています。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。